

太田川の環境整備

水の都ひろしまの再生に向けて

「水の都」と言われた広島市のかつての良好な水環境を取り戻すため、国土交通省・広島県・広島市が共同で平成2年に「水の都整備構想」を策定し、これに基づいた環境整備を行ってきました。その後、平成15年に「つかう・つくる・つなぐ」の3つの基本方針を柱とした新たな「水の都ひろしま」構想がまとまり、実現に向けてさらに整備が進められることになりました。

「水の都ひろしま」構想の3つの柱

- つかう：～市民による水辺の活用～
- つくる：～水辺空間の整備とまちづくりとの一体化～
- つなぐ：～水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり～



元安川親水テラス



元安川の原爆ドームの対岸に、水辺に近づきやすい階段状の親水テラスを整備しました。毎年「原爆の日」には、平和を願う「灯ろう流し」や親水テラスを晴れ舞台とした「水辺のコンサート」など多くの催しが行われ、市民や観光客の憩いの空間となっています。

基町環境護岸



親水性を持たせた川づくりの先駆けとして基町環境護岸整備を行いました。都市部に開かれた水と緑のオープンスペースとして市民の憩いの場となっています。基町環境護岸は、2003年度土木学会デザイン賞(特別賞)を受賞しました。

中央公園と基町環境護岸の一体化



広島市民球場跡地利用計画の策定に際し、基町環境護岸と広島中央公園、広島城、平和記念公園等の周辺地域との回遊性の向上を目指した整備を広島市とともに検討しています。

橋梁アンダーパス



橋梁アンダーパス



北大橋東詰アンダーパス

橋で分断されていた水辺の遊歩道の連続性を確保するため、橋桁下の遊歩道「アンダーパス」整備を行っています。

水辺のネットワーク



雁木タクシー

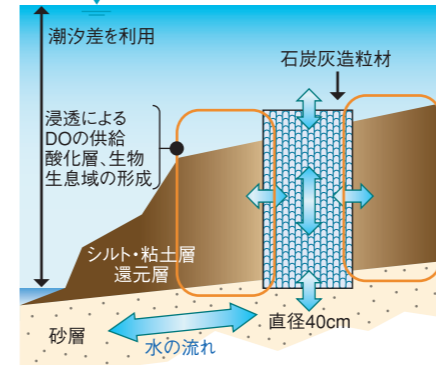
雁木(ガンギ):潮の干満に対応した階段状の船着場

古くからある雁木を活かした水上タクシーや、原爆ドームと宮島厳島神社の二つの世界遺産を結ぶ水上バスなど、民間や市民団体による水辺のネットワークづくりに協力しています。

底質改善実験

市内派川に発達する河岸干潟は、下流ほど有機泥の堆積が厚くなり最大で約40cmにもなります。このような底質を改善し、泳げ遊べる水辺づくりを目指し、広島大学・中国電力グループとともに、石炭灰を活用した河川干潟泥質改善技術に関する研究を行っています。この新技術は、天満川での小規模検証実験を経て、平成17年12月には旧太田川空鞆橋下流において幅5m×長さ100mの大規模実証実験を行いました。

さらに、平成20年度には、旧太田川相生橋から空鞆橋間にまで実証実験の範囲を拡大しました。平成21年度からはモニタリング調査を実施し、その結果を確認しています。



底質部に石炭灰を埋め込み、潮の干満差を利用して水循環を形成することにより底質部の環境を改善する技術です。



石炭火力発電所から出る石炭灰を粒状に固めた「石炭灰造粒材」を埋め込んだ状況です。



昭和38年の元安川の状況(中国新聞提供)

オープンカフェ ～公共空間の多目的利用を目指した社会実験～



元安川



京橋川

公共空間の多目的利用を図るため、民間事業者による河川敷地占用に係る特例措置を設け、社会実験を行っています。

平成17年10月に開業したオープンカフェ(広島市)は、にぎわいのある水辺をつくり出しています。

親しまれる川を目指して

魚道 ～魚がすみやすい川づくり～



太田川は平成4年3月に「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル河川」に指定されました。広島県、中国電力(株)と協力し18箇所魚道の新設や改良を行い、河口から安芸太田町戸内まで魚が遡上できる環境が整いました。

滝山川ふるさとの川整備事業

太田川の支川滝山川では、「町ぐるみで集い、ふれあい、育つ川」をテーマに太田川合流点から上流約2kmまでの区間を整備しています。



やすらぎとふれあいの水辺空間 ～古川の多自然川づくり～



広島市安佐南区

都市域で貴重な自然環境が多く残る古川を周辺のまちづくりとの調和を図りながら整備しています。

水辺の楽校

子ども達の自然教育の場として、緩傾斜護岸など親水性に配慮した河川整備を行う「水辺の楽校」プロジェクトを展開しています。



「かがわ水辺の楽校」でのカヌー教室